

平成 29 年度 新任教員研修会開催

第 1 回	日 時 平成 29 年 5 月 1 日 (月) 13:00 ~ 15:00	第 2 回	日 時 平成 29 年 6 月 14 日 (水) 12:30 ~ 14:30
	場 所 12403 教室		場 所 5401 教室
	参加者 教職員 (39 名)		参加者 教職員 (39 名)
	テーマ 京都産業大学の教育の特色		テーマ 教員と学生間の対話の促進

本学では、新任教員が本学の教育や学生の特徴を理解し、他の教員との対話から気づきを得て今後の授業・教育活動に活かすことを目的として、毎年春学期に 2 回、新任教員全員を対象とした研修会を実施しています。

今年度の第 1 回研修会では、京都産業大学の教育の特色のほか、文系・理系学部先輩教員（現代社会学部 濱野 強 教授、理学部 渡辺 達也 教授）から授業の実践事例が紹介され、これらの話を手掛かりに、授業の運営方法などについて、新任教員が自らの疑問点や悩みも含めて、学部の先輩教員らと意見交換を行いました。私語の減らし方、学生のノートの取り方、障がいのある学生への対応、グループワークでの教員介入の程度、大人数クラスでの記述式テストの実施方法など話題は多岐に渡りました。

第 2 回研修会は、各教員が第 6 週目までに実施した「教員—学生間の授業に関する対話」の結果を持ち寄り、学生の要望や意見へのフィードバックなど、学生との向き合い方について意見交換を行い、各教員の様々な思いや、課題などが共有されました。



学生との対話についての意見交換



議論を深める参加教員

新任教員から寄せられた感想

- ・実際の授業での工夫や、学生の現状など“生”の情報が研修会で得られてよかった。
- ・授業の仕方に 1 つの正解というのはないと改めて思いました。試行錯誤し、いろいろな先生方のお話もうかがいながら、自分なりの授業づくりをしていきたい。
- ・学生を成長させるためにどうすれば良いかについても今後、更に話したい。

参加された先輩教員の感想

- ・様々な問題が話題に上がり、教育について改めて考えるよい機会となった。新任の先生方の熱心さが頼もしく感じた。

平成 29 年度 教育プログラム支援制度 採択プログラム

京都産業大学では、教育の質向上と教育改革の推進のため、全学的視点から公募テーマを提示して試行的な教育プログラムに支援を行う「教育プログラム支援制度」を運用しています。今年度も以下の 5 プログラムが採択され、始動しました。

公募テーマ	取組名称	申請代表者
アクティブラーニング型授業の導入・推進	自主学習のための講義科目の学生参画型部分 e-ラーニング化	法学部 中井 歩 教授
	生命科学教育の新しい手法としてのハテナソンの開発と教育実践	総合生命科学部 木村 成介 教授
高大接続・高大連携プログラムの充実	附属高校との高大接続を基盤としたアクティブラーニング型カリキュラム開発	現代社会学部 河原 省吾 教授
ゼミ活動の活性化	国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト 2017(IVRC) への参加	コンピュータ理工学部 永谷直久助教
	「食」の現場から考える	総合生命科学部 前田秋彦 教授

(順不同)



和牛の健康診断のため格闘する学生たち

採択プログラムから総合生命科学部前田教授が申請代表者として取り組まれているプログラム—「食」の現場から考える—の活動を紹介します。

総合生命科学部動物生命医科学科では、1～3 年次における微生物学系の講義・実習で、学生は感染症や食中毒など「食の安全」についての教育を受けています。高学年になると学生は各研究室で、研究課題について情報を収集し、考え、実験し、解決する理系版 PBL に取り組みます。本プログラム「食の現場から考える」では、3、4 年次の学生が自らの学びや研究活動と関連付けた様々な「食」の現場でインターンシップを行い、肉牛の生産現場において肉質向上に向けた健康管理を如何に行うかなど社会における課題解決の実践を体験することで、大学での学びを社会のなかで活かす力を養い、自らの専門分野を活かしたキャリア選択について考えることを目的としています。

CERADES News Vol.11 2017 年 10 月発行
 編集 / 発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel : (075)705-1729
 e-mail : kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL : http://www.kyoto-su.ac.jp/about/cerades/index.html

CERADES News

京都産業大学 教育支援研究開発センターニュース
 セラデス ニュース

Vol.11
 Oct. 2017



平成 29 年度全学 FD/SD 研修会より

教育支援研究開発センター事務長からの挨拶

京都産業大学
 教育支援研究開発センター事務長

大西 達也



平成 22 年 4 月 1 日、本学の更なる教育の質向上を目的に、「教育エクセレンスセンター」を、「教育支援研究開発センター」へと発展的に改組し、全学的な FD/SD の推進、高等教育に関する調査・研究、教育活動や学修の支援にあたってきました。本誌セラデスニュースでは、平成 26 年 2 月の初刊以降、特色ある教育・学習の実践事例などを紹介し、教職員の FD/SD につながる対話のきっかけをうみだしてきました。本学学生が「むすんで、うみだす」人材へと成長を遂げる、この神山キャンパスの「教育を支援する」という観点から、様々なキーワードを盛り込みながら、読者のみなさまと共に考える紙面作りを目指していきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

Contents

p2 平成 29 年度 全学 FD/SD 研修会
 ～ 3 つのポリシーの改定に向けて～

p3 第 7 期 学生ファシリテータ活動報告

- 第 7 期学ファシ活動の概要
- 学ファシの活動紹介
- 1 年間の活動を締めくくる「ふりかえりの集い」

p4 FD/SD 活動の推進 —大学のさらなる進化に向けて—
 平成 29 年度 新任教員研修会開催

平成 29 年度
 教育プログラム支援制度 採択プログラム
 「食」の現場から考える—活動紹介

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、セラデススタッフが企画・取材・デザイン制作している刊行物です。

CERADES (セラデス) は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

平成 29 年度 全学 FD/SD 研修会 ～3つのポリシーの改定に向けて～を開催しました

7月5日（水）、教育支援研究開発センター・学長室主催「全学 FD/SD 研修会～3つのポリシーの改定に向けて～」を開催しました。

本研修会は、既存の「学部・研究科3つのポリシー」改定に向けて、その目的と策定イメージの共有のために、各学部長をはじめとした教員および事務職員の82名が参加しました。当日は、京都大学高等教育研究開発推進センター山田 剛史准教授に省令改正の経緯や DP・CP・AP の各ポリシー改定における留意点を具体的に説明いただき、また京都外国語大学外国語学部村上 正行教授からは、学習成果可視化の取り組みについて、自大学の事例を基に紹介いただきました。その後、講演を基にして、各部局間によるグループ討議にて情報共有・意見交換を行いました。今後、学部・研究科の3つのポリシー改定にあたり、各学部長・研究科長を中心に留意すべき事項に検討を重ね、新ポリシー策定に向けて推進して参ります。



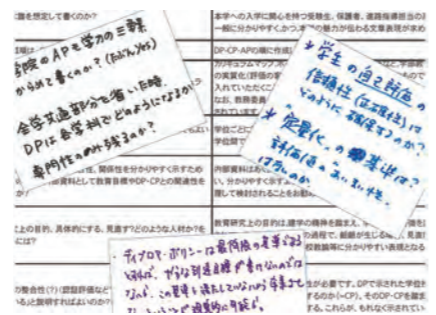
研修プログラム

1. 開会挨拶 大城 光正 学長
2. 講演
「3つのポリシー：改正の背景と作業上の留意点」
山田 剛史氏（京都大学 高等教育研究開発推進センター准教授）
「学習成果の可視化：京都外国語大学の取り組み」
村上 正行氏（京都外国語大学 外国語学部教授）
3. 「本学における3つのポリシー改正：現状とこれから」
佐藤 賢一 教育支援研究開発センター長
4. グループ討論
・講演内容に対する質問の共有
・学位3つのポリシーにおける改正のポイント検討
5. 閉会挨拶 大和 隆介 副学長

研修会を終えて

教育支援研究開発センター センター長 佐藤 賢一

本ニュースの記事にもあるように、研修会の後半部で「今後の取り組みにあたっての疑問や課題の可視化」を目的として、所属部局・部署単位でグループ討論を行いました。本ニュース表紙やこのページにある写真は、その様子を多く捉えています。学部・研究科および全学共通教育センターのそれぞれに、学部長らを含む数名以上の教員・事務職員が集って、活発な議論が交わされました。その成果は、所属部局・部署単位での質問リストの掲示という形で全体に共有され（右図の手書きデータは、その一部抜粋です）、さらには後日、本センターが中心となり作成したQ&Aとして（右図の背景データは、その一部抜粋です）、全学内に報告・共有されました。このような場に接して、学生に主体的で対話的な深い学びを、そして私たち自身も教育に研究に、そして大学をよりよく活性化していくために、学んでいきたいと、あらためて実感しました。



第7期 学生ファシリテータ活動報告

学生ファシリテータ（通称：学ファシ）とは、グループワーク等の円滑な進行をサポートする学生ボランティアスタッフです。教育支援研究開発センターのF工房では、学ファシの募集や養成、コーディネートを行っています。ここでは、平成29年度で7期目となる学ファシ活動の様子を報告します。

第7期 学ファシ活動の概要

平成28年9月から活動した第7期生は57名で、授業や催事の場面で活動しました。主な活動の中には、学部オリエンテーションの参画等に加えて、キャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」（28クラス合計1847名が受講）の支援があり、各クラス学ファシ2～3名体制で授業コンテンツの運営やサポートを行いました。受講生からは学ファシがいることで、大学生活を身近に感じられたという意見が聞かれました。また、学ファシ自身も、人の支援を通じて、話す・聴く・観察するスキルを身に付ける等、成長することができました。

第7期の主な活動

- ・事前研修（計8回）
- ・学部オリエンテーションでの新生サポート（現代社会学部、外国語学部、文化学部、理学部、コンピュータ理工学部）
- ・キャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活」
- ・大学コンソーシアム京都 第22回FDフォーラムでのポスター発表等
- ・「ふりかえりの集い」

学ファシの活動紹介 （現代社会学部オリエンテーションの支援）

平成29年3月、現代社会学部の入学予定者を対象としたキャンパスオリエンテーションの企画に学ファシが参画しました。同学部の入学予定者同士の関係づくりとキャンパス理解を目的としたもので、学ファシと現代社会学部の教員が協働で企画・運営しました。実施の約2か月前からミーティングを重ね、入学生同士の交流に向けた工夫について検討してきました。当日は約140名の入学生がグループに分かれて学内を巡り、学ファシは学内の4つのチェックポイントに待機し、チェックポイントにまつわるクイズを出題。入学生同士の自己紹介が高得点に結びつくような工夫を盛り込んだこともあり、終了後にはグループに和気あいあいとした雰囲気が生まれ、入学生同士の交流が深まった様子でした。



■チェックポイントでクイズを出題



経済学部
経済学科4年次生
大森 浩希（学ファシ歴2年）

このプログラムは学ファシと教職員が1から作り上げました。プログラムの立案にあたっては、入学生が抱えている「友達できるのかな？」等の気持ちを入学生の目線に立って考えることを意識しました。当日、実際にプログラムを運営してみると、友達を作る様子や「このオリエンテーションに参加して良かった」と言っている入学生の姿を見られたことがとても嬉しく、やりがいを感じました。

本プログラムの実施前には面識が無い学生同士であっても、終了後には連絡先を交換するなど、新入生同士のコミュニケーションの促進につながっていたと思います。本年度は新入生にとって先輩となる在学学生がいなかったため学ファシの協力を仰ぎましたが、ファシリテーションの素養を身につけた学生がプログラムに関わることで、円滑な運営が実現できました。



現代社会学部
健康スポーツ社会学科
演野 強 教授

1年間の活動を締めくくる「ふりかえりの集い」

8月9日（水）、学ファシ活動で得られた学びを深めることを目的に「ふりかえりの集い」を実施しました。午前は個人やペアで活動期間の出来事や各自の取り組みを振り返り、午後は「学ファシ同士や教員との連携をどのように取るか」等のテーマに分かれ、議論を深めました。プログラムの最後には、「自己発見と大学生活」の授業支援への貢献をたたえるため、キャリア教育研究センター副センター長の久保秀雄准教授より感謝状の授与が行われ、感謝・ねぎらいの言葉が送られました。



■「ふりかえりの集い」での集合写真

F工房スタッフより



学ファシは学部の新入生オリエンテーションだけでなく、語学授業や初年次演習等でも活躍しており、今後も活動の幅を広げていきたいと考えています。アイスブレイクの進行だけでなく、大人数授業でのグループワーク運営の補助なども担うことができますので、ご関心のある方はお気軽にお問い合わせください！（F工房 コーディネータ 鈴木陵）